



小笠原村「ゼロカーボンシティ」宣言

人々の暮らしと島々の自然を守り紡いでいくために
2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します！

小笠原村は私たちが住む父島と母島のほかに、硫黄島や、貴重な生き物が暮らす多くの島々があり、その多くは世界自然遺産に登録されています。しかし近年、大渇水や台風の直撃、大雨などにより、どの島も繰り返し大きな被害を受けています。このような異常気象は地球規模で進行する気候変動が要因の一つになっており、今後は、さらなる気候変動により、私たちの暮らしや自然環境の危機が予想されていることから、自分たちのこととして取り組むべき喫緊の課題です。

2015年のパリ協定では、産業革命からの平均気温上昇を1.5度に抑えるよう努力目標が示され、2018年に公表された国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の特別報告書では、気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、「2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロ」にすることが必要と示されています。

小笠原村においても「心豊かに暮らし続けられる島」の実現に向けて、地球温暖化対策の取組をより一層加速させ、私たちの生活を守るため、かけがえのない豊かな自然を次世代へと紡いでいくために、村民、事業者、来島者が一体となって、2050年までに、小笠原村の二酸化炭素排出量実質ゼロへ挑戦することをここに宣言します。

令和4年9月12日

小笠原村長

荒谷正昭